

めぐみイエス・キリスト教会

2022年12月18日(日)第三主日アドベント礼拝
週報「通算第637号」



2022年標題聖句

第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌68「久しく待ちにし」 p. 90

【交読文】 No.52 ルカの福音書第1章 p. 921

【賛美Ⅱ】 新聖歌75「神の御子は」 p. 102

【使徒信条】 【主の祈り】 【先週説教】

【賛美Ⅲ】 新聖歌77「きよしこの夜」 p. 105

【聖書朗読】 ルカの福音書1章26節～45節 p. 107下段

【礼拝説教】 《受胎告知》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所「ルカの福音書1章26節～45節」

1:26 さて、その六か月目に、御使いガブリエルが神から遣わされて、ガラヤのナザレという町の一人の処女のところに来た。

1:27 この処女は、ダビデの家系のヨセフという人のいいなずけで、名をマリアといった。

1:28 御使いは入って来ると、マリアに言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます。」

1:29 しかし、マリアはこのことばにひどく戸惑って、これはいったい何のあいさつかと考え込んだ。

1:30 すると、御使いは彼女に言った。「恐れることはありません、マリア。あなたは神から恵みを受けたのです。」

1:31 見なさい。あなたは身ごもって、男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。

1:32 その子は大いなる者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また神である主は、彼にその父ダビデの王位をお与えになります。

1:33 彼はとこしえにヤコブの家を治め、その支配に終わりはありません。」

1:34 マリアは御使いに言った。「どうしてそのようなことが起こるのでしょうか。私は男の人を知りませんのに。」

1:35 御使いは彼女に答えた。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれます。」

1:36 見なさい。あなたの親類のエリサベツ、あの人もあの年になって男の子を宿しています。不妊と言われていた人なのに、今はもう六か月です。」

1:37 神にとって不可能なことは何もありません。」

1:38 マリアは言った。「ご覧ください。私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおり、この身になりますように。」すると、御使いは彼女から去って行った。

1:39 それから、マリアは立って、山地にあるユダの町に急いで行った。

1:40 そしてザカリヤの家に行って、エリサベツにあいさつした。

1:41 エリサベツがマリアのあいさつを聞いたとき、子が胎内で躍り、エリサベツは聖霊に満たされた。

1:42 そして大声で叫んだ。「あなたは女の中で最も祝福された方。あなたの胎の実も祝福されています。」

1:43 私の主の母が私のところに来られるとは、どうしたことでしょう。」

1:44 あなたのあいさつの声が私の耳に入った、ちょうどそのとき、私の胎内で子どもが喜んで躍りました。」

1:45 主によって語られたことは必ず実現すると信じた人は、幸いです。」

■ **ガブリエル** 「神の人」あるいは「神は御自身を強いものとして示された」という意味。聖書の中で、御使いとして、ガブリエルとミカエルのみが名前を掲示されている。ガブリエルは、ダニエルが見た雄羊と雄やぎの幻を解くため、また、70週の預言を与えるために遣わされた。新約聖書においては、ザカリヤに現われて、エリサベツがヨハネをみごもったことを告知している。また、マリヤに現われて、イエスの誕生を告げている。

◎先週の礼拝メッセージ【カナの婚礼の奇跡】

《毎月一度、ヨハネの福音書に記されている「七つの奇跡」について学びます。最初は、2章に書かれています「カナの婚礼」の奇跡です。主イエスが「水をぶどう酒に一瞬にして変える」と言うお話です。

カナとは、ナザレの北約14キロの地点にある町のことです。主イエスが、6番目の弟子として、このカナ出身のナタナエルを召し出した、その三日後に、カナの婚礼が催されたのです。主イエスの母マリアが、婚礼の接待係を担当していました。主の弟と妹たちも、母マリアの手伝いに来ていたと思われれます。そして、おそらく主ご自身と共に、六名の弟子たちも、給仕の者としてかり出されたと考えられます。

ユダヤの婚礼の席は、一週間は続きます。花婿も、世話役も十分なぶどう酒を用意していたはずなのです。しかし、婚宴の終わりの方で、ぶどう酒がきれてしまいました。そのことをいち早く知った母マリアは、息子イエスにこう言うのです。「ぶどう酒がありません」

婚宴の席において、ぶどう酒がきれてしまったことは、主役の花婿にとって大きな失策です。面目丸つぶれです。そこで主イエスは、弟子たちにこう言うのです。「水がめを水でいっぱいにしなさい。」

6つの水がめ全部が、満たされたその時に奇跡が訪れます。水は無臭ですが、辺り一面に甘酸っぱい香ばしい香りが漂ったのです。「さあ、それを汲んで、宴会の世話役の所に持って行きなさい。」

この時、弟子たちは、そのぶどう酒を飲んだのです。このぶどう酒は、彼らの人生において、今まで味わったことのない、最高に美味しいぶどう酒であったのです。このように、主イエスが用意される物は、いつも最高の物なのです。ヨハネはこう締めくくっています。『イエスはこれを最初のしるしとしてガリラヤのカナで行ない、ご自分の栄光を現わされた。それで、弟子たちはイエスを信じた。』と。》

お知らせ

※クリスマス礼拝は、時間変更して12月25日(日)午前10時30分から行ないます。1月1日(日)の礼拝はお休みで、1月8日からとなります。